

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(葦北郡)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	芦北郡	(旧田浦町)芦北町田浦	古代儀おどり	こだいたわらおどり	田浦町無形民俗文化財 昭和54年3月20日	11月18日	田浦阿蘇神社	桶踊りと同じく、元禄四年伝わってきたもの。【2001】 《構成》庄屋・肝煎・村役人各1人、唄1人、三味線2人、小鼓1人、太鼓2人、笛2人、踊り20人。《由来》桶踊りと同様、元禄4年(1691)浜邑(現在の大字田浦町)の人が伊勢参りの帰りに筑前の田浦から習ってきたという。【1991】				無病息災 商売繁盛
2	芦北郡	(旧田浦町)芦北町田浦	下村棒おどり		田浦町無形民俗文化財 昭和54年3月21日	11月18日	田浦阿蘇神社	薩摩から伝来し、天保年間に宮尾家、岡田家の祖先が習得して始めたもの。【2001】 《演目》鎌倉、巻き落とし、ずりあげ、都入り。《由来》田浦の下村地区の人が天保年間に薩摩から習ったものだという。【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	無病息災 商売繁盛
3	芦北郡	(旧田浦町)芦北町田浦字宮後	臼太鼓おどり	うすだいこおどり	田浦町無形民俗文化財 昭和54年3月22日	11月18日	田浦阿蘇神社	雨乞い踊りとして神社に奉納されている。【2001】 《構成》太鼓12人、鉦6人、旗持ち1人、ドンデ持ち1人。《特色》戦国時代に芦北町から伝えられたという。雨乞いでよく踊られた。【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	無病息災 商売繁盛
4	芦北郡	(旧田浦町)芦北町田浦	町地区古代槍おどり		田浦町無形民俗文化財 昭和60年8月12日	11月18日	田浦阿蘇神社	元禄四年の五月、三島屋善四郎と竹田段次の一行が筑前の田浦から習得した【2001】 《由来》元禄4年(1691)浜邑(現在の大字田浦町)の人が伊勢参りの帰りに筑前の田浦から習ってきたという奴踊り。【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
5	芦北郡	芦北町宮浦	宮浦の棒踊り	みやのうらぼうおどり	熊本県重要無形民俗文化財 昭和42年4月19日	8月15日	初盆の家	薩摩の山野(現・大口市)から伝承され、若者が練習を積み、文久3年(1863)に庄屋に嘆願し、宮浦地区の雨乞いや盆に踊ることが許されたと記録にある。薩摩の武芸である示現流の変形を踊りに仕立てたものといわれるが、盆踊り的なしなやかな踊りの要素をも含んでいる。6尺棒4人、鎌2人の計6人で1組をなし、何組作ってもよいが、現在では4組24人に歌い手2人を加えた宮浦地区の男子によって伝承されている。演目は、「出端」、「鎌倉」、「さんさ節」、「示現」、「巻込み」、「片鎌」、「山野」である。演目により、3人、6人、12人の単位で互いに棒や鎌を打ち合いながら踊る。【熊本県ありのままHP2005】 薩摩の武芸踊りの流れを汲むもので6種類からなる。【2001】 《演目》道歌、鎌倉、捲込、さんさ節、氏源流、道歌。《由来》文久3年、(1863)に薩摩から学んだのが始まりという。【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
6	芦北郡	芦北町大川内	内野の棒踊り	うちののぼうおどり	熊本県重要無形民俗文化財 昭和42年4月19日	定期		伝承によれば、江戸時代末期に薩摩から内野地区に養子にきた庄次郎という人が、以前から伝わっていた踊りを現在のよう形にして教えたとされている。この棒踊りは6人1組を基本とし、総勢10組60人で組織されていたが、現在は2組12人で踊られる。特徴的なのは、踊り手の半数が女性であることで、男性が6尺棒、女性が太刀を持つ、衣装は男女により長着物が異なるのみで、他は同じである。踊りは、(1)入場にあたる「庭入り」、(2)開始の挨拶にあたる「礼式」、(3)6尺棒を3人で打合う「棒踊り」、(4)男女による棒と太刀の打合いと手踊りからなる「太刀踊り」、(5)退場、という内容で、歌い手2人による歌が伴う、この踊りは、雨乞いや初盆供養、祝賀行事等の機会に踊られてきた。【熊本県ありのままHP2005】 薩摩人の上村庄次郎が、自ら習得していた武芸踊りと、内野地区に伝って【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
7	芦北郡	芦北町鶴木山	鶴木山臼太鼓踊り		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	定期		村祭り、盆、供養、雨乞い祈願等に奉納されていた。【2001】 《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 風流芸		芦北町役場 0966-82-5498	
8	芦北郡	芦北町計石	計石唐人踊り		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	定期		享保9年の大干魃の際には雨乞い踊りとして奉納されたことが記録されている。【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
9	芦北郡	芦北町伏木氏	伏木氏棒踊り		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	定期		武術に江戸末期頃、薩摩の流れを取り込んだもの。【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
10	芦北郡	芦北町花岡北	花岡北獅子舞		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	定期		佐敷諏訪神社大祭や芦北町文化祭などで発表を行っている。【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
11	芦北郡	芦北町花岡東	花岡東獅子舞		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	定期		佐敷諏訪神社大祭や芦北町文化祭などで発表を行っている。【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
12	芦北郡	芦北町上原	上原臼太鼓踊り		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	定期		別名、上原臼太鼓御神楽ともいい江戸時代に伝わったという。【2001】	【伝統芸能】 風流芸		芦北町役場 0966-82-5498	
13	芦北郡	芦北町天月	才木雷狂言		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	定期		雨乞いの狂言で、動作、言葉のやりとりがユーモラスである。【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
14	芦北郡	芦北町天月	才木棒踊り	さいきぼうおどり	芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	8月15日	初盆の家	演目⇒出派遣道行、出派遣入、三派流、鎌倉、山川、三尺。【1991】 盆踊りとして、初盆の家の庭や、雨乞いの行事などで踊られた。【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
15	芦北郡	芦北町下白木	下白木棒踊り		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	8月15日		先祖供養と若者の成人祝いの役割を果たしていた。【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
16	芦北郡	芦北町女島	平生雷狂言		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	定期		才木雷狂言と同じ雨乞いの狂言である。【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
17	芦北郡	芦北町米田	百木さなぶり		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	6月下旬	百木公民館	田植えの慰労と豊作を祈願して祝う行事。【2001】 《構成》牛2頭(2人立ち)、鉦1人、マガ1人、代ならし1人、苗配り1人、綱張り2人、植え手8人、唄2人。《特色》大正2年に始まったもので、田起こしから田植えまでを演じる。【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
18	芦北郡	芦北町内木場	内木場臼太鼓踊り		芦北町無形民俗文化財 昭和55年7月1日	旧9月29日	内木場の観音堂	江戸時代より伝承されている。踊りは4つあり鉦、太鼓を用いる。【2001】 《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 風流芸		芦北町役場 0966-82-5498	
19	芦北郡	芦北町天月	才木兵糧つき唄		芦北町無形民俗文化財 昭和60年4月15日	定期		米、麦、粟などを精製するときに杵の音に合わせて口ずさんだ唄。【2001】			芦北町役場 0966-82-5498	
20	芦北郡	芦北町市野瀬	市野瀬棒踊り	いちのせぼうおどり	芦北町無形民俗文化財 昭和62年4月15日	8月15日	市野瀬地区の初盆の家	約160年前に久木野手永(源水俣市久木野)から伝わったといわれている。【2001】 《演目》殿の歌、六人寄せの歌、新鎌倉の歌、なぎなたの歌、鎌倉の歌。《沿革》150年前に水俣の久木野から習ってきたという。【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	
21	芦北郡	芦北町岩屋川内	岩屋川内臼太鼓踊り		芦北町無形民俗文化財 平成6年4月15日	定期		江戸時代より受け継がれてきたといわれる。【2001】 《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 風流芸		芦北町役場 0966-82-5498	
22	芦北郡	芦北町白木	白木の七夕綱		芦北町無形民俗文化財 平成11年8月31日	定期		公民館に地区住民が集まり綱をない、村の入り口の山から山に張って、16日の【2001】 《構成》《特色》【1991】			芦北町役場 0966-82-5498	

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
23	芦北郡	津奈木染竹	染竹棒踊り		津奈木町無形民俗文化財 平成4年5月21日			<p>染竹の棒踊りは、ある親子の物語で娘が仇討ちの練習をしている様子を棒踊りで表現しています。昭和30年頃、水俣市寒川地区の人達が出稼ぎに行った先でその棒踊りを見て気に入り、伝授してもらったのが始まりです。その後、寒川地区の人々が練習している様子を見て、染竹地区でも踊りだし、今でも受け継がれています。娘が持っている鎌の「エ」の下には鎖がついていたのですが、ケガがないよう、現在は赤いフサがついています。水俣・芦北地方には、各地で棒踊りが踊られ、それにまつわるエピソードも地域ごとに語り継がれています。手に持つものも長鎌であったり、長刀だったり、人数や唄の内容などに地域の特徴を見ることが出来ます。《あらすじ》薩摩の小さな田舎の片隅で、父と娘2人が貧しいながらも楽しく暮らしていました。ある日、親子で水田の草取りをしていましたが、横の道を侍達が通るので、道には投げないよう気をつけていました。しかし、うっかり娘が道に投げた草が、運悪く通りかかった侍にかかってしまい、立腹した侍は、娘を無礼討ちにすると言いました。父は、「娘のかわりに、おれを切ってください。」と言うと、侍はためらいもなく父親を切り捨てました。娘達は悲しみにうちひしがれましたが、仇討ちをしようと誓い、姉は長刀、妹は鎌を握りしめ、朝夕練習をしました。《登場人物》父親…「娘にはこれから先、長い人生の楽しみがあるので、おれを切ってください。」とかわいい娘のために身代わりになる事を申し出る。姉…鍛や鎌しか手にした事がなかったが、父の敵討ちの為、長刀を持ち練習する。妹…鎌に鎖をつけ仇討ちの練習をする。侍…娘の投げた草の土がかかり、腹を立て無礼討ちしようとする。【津奈木町HP/2005】</p> <p>明治中期頃に薩摩の流れをくむ。水俣市久木野寒川地区よりつたえられたとされる。【2001】</p> <p>《構成》《特色》【1991】</p>				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
24	芦北郡	津奈木平国	平国六方踊り	ひらくにろっぽうおどり	津奈木町無形民俗文化財 平成4年5月21日	3月6日	つなぎ文化センター	一時途絶えた地域の宝を継承しようと、平国小児童による「平国六法踊り風ん子もやい保存会」が結成され、今年で20年になる。過疎や少子化で児童数は減少の一途をたどるが、月1回の練習に励み町内外のイベントに出演。踊りの起源は不詳だが、約250年前から雨乞いや祝い事の際に踊られてきたとされる。力自慢の4人の六法(侍)が刀を抜いて喧嘩しそうになるが、別の六法が「短気は損気」となだめて仲裁。六法と奴(手下)が仲直りに踊りだすとのあらずじだ。三味線と太鼓の演奏に合わせ、独特な節回しの唄が3つ入る。踊り手の高齢化で1968年を最後に途絶えていたが、地区住民が'91年に平国六法踊り保存会をつくり、古老から聞き取りして復活させた。同小のもやい保存会は93年にでき、住民が踊りの指導や楽器の演奏を手伝う。町や学校の祭りに年3回出演し、くまもと未来国体のステージアトラクションなどに出たことも。2002年には県文化財保護功労者の学校表彰第1号に輝いた。同小児童数は最も多かった59年の236人から現在は22人に減少し、もやい保存会に入る3年生以上は14人。本来は六法、奴、唄い手、太鼓、三味線で20人以上が必要。踊り手が足りず見た目が寂しい、と大人の保存会会長。児童減で同小が統廃合される可能性もあり、そうなれば活動そのものが継続しづらくなるという。大人の保存会の六法役5人も発足時メンバーしかおらず、こちらの後継者づくりも課題。【2013.82熊日】 平国の六方踊りは、物語を表現する県内でも珍しい踊りです。起こりは不明ですが、地元で古老に聞くところによると200年前くらいから、伝承されているといわれています。六方とは侠客(※1)のことを言い、剛健めかした踊りで、柔軟な言葉や動作は避け台詞も動作も大袈裟に表現するので、まるで歌舞伎を見ているようです。祝いごとや、雨乞いなどによく踊られ、殊に雨乞いに踊って雨の降らなかつたことは、一度もなかつたといわれています。この踊りは、これまで踊り手が老齢となり、明治100年の記念行事で踊られたのを最後に途絶えていました。しかし、「子供達に見せたい」と踊りを再現し、13年ぶりに再現しました。※1 侠客…強い者をくじき、弱い者を助ける人。《あらずじ》5人の六方が道中で出会い、それぞれ力自慢腕自慢を言い合って、陰悪な雲行きになってきたところで、黙って聞いていた品川柵之介なる六方が仲に割って入り、「短気は損気、自分自身の損、世の中は仲良く、家庭円満、家業にはげみ、神仏を信仰して愉快にすごしましょう。私の手下の奴達が踊りますから機嫌をなおしましょう。」とたくみに教訓				
25	芦北郡	芦北町浜崎	浜崎俵踊り			不定		《構成》旗持ち1人、歌1人、三味線1人、笛1人、太鼓1人、拍子木1人、鉦1人、踊り子12人、庄屋1人、肝煎1人、村役人1人。【1991】				
26	芦北郡	芦北町古石地区	石棒付き			10月22日	古石公民館みどりの里(旧古石小)地区運動会	古石地区に伝わる石棒付きが40年ぶりに同地区運動会で復活。同地区で家を建てる時、土台となる石を木の棒で地面に埋め込む作業。木の櫓を組んで、地区の男性が総出で「やーれ乗ったか乗ったかヨーイヨイ」などと声を合わせ作業をしていた。昭和40年頃まで家が建つたびに舞われていたが、コンクリートの基礎が普及してからは途絶えていた。そこで住民有志が石棒付きと踊りを地区公民館主催の運動会で復活させることを計画。運動会も、古石小が廃校になってから3年ぶりの開催。【2006.10.24.熊日】				
27	芦北郡	芦北町古石地区	すこたこなまこ	すこたこなまこ		10月22日	古石公民館みどりの里(旧古石小)地区運動会	古石地区に伝わるすこたこなまこが40年ぶりに同地区運動会で復活。すこたこなまこは、石棒付きをずる周りを仮装した女性が「すこたこなまこ ちんのうお」などとリズムカルにはやしながら舞う祝いの踊り。炭を手には隠し持ち、男性の顔に塗り付けていたという。【2006.10.24.熊日】				
28	芦北郡	芦北町佐敷城跡	薪能	たきぎのう		9月28日	佐敷城跡	熊本県史跡指定1998年より、毎年中秋の名月前後に開催。狂言「清水」能「花月」観月会による。【2012.9.29読売】	【伝統芸能】 風流芸			
29	芦北郡	津奈木町	つなぎ舞鶴太鼓			3月1日 11月15日	つなぎ文化センター	和太鼓グループ「つなぎ舞鶴太鼓」の結成25周年記念公演。1989年結成の舞鶴太鼓は水俣・芦北地域の園児から50代まで34人で活動。週3回の練習に励み、地域の祭りなどで欠かせない存在になりつつある。公演では、同町のお盆の風物詩、競舟大会をイメージした「せり舟」など自作を含む14曲を披露。力強い太鼓の音、笛の音色、勇ましい掛け声が会場に響いた。【2014.3.2熊日】				